

奥山大使による I O M 支援プロジェクト式典への出席

3月2日、奥山大使は、アカバ県ワーディ・アラバ国境施設を訪問し、日本が令和2年度補正予算により支援する I O M ヨルダンを通じたプロジェクト「ヨルダン国境管理当局のコロナ危機対応能力の強化及び社会経済的影響の緩和」により整備した国境施設内設備の引渡し式典に出席しました。本プロジェクトは、新型コロナウイルスを含む感染症の拡大防止対策に関するヨルダン国境管理当局及び保健省の能力を強化するとともに、国境施設における感染対策等の作業手順を改善し、円滑な国境往来を促すことで感染拡大がもたらした社会経済への影響を緩和することを目的としており、ヨルダン国内で計4箇所の国境設備のインフラ整備・機材調達の他、保健省及び国境管理当局職員に対する能力強化トレーニングが実施されました。

本式典には、シェイヤブ保健省プライマリーヘルスケア局長、クルト I O M ヨルダン代表等が出席し、各代表から日本の継続的な支援に対する感謝の意が述べられました。式典後、完成した施設の視察を行いました。

日本は、ヨルダンにおいて I O M と協力した支援プロジェクトを継続して実施しており、本年には「北東国境地域において緊急外傷・トラウマ治療を提供するヨルダン軍の能力支援」プロジェクトに対し、令和4年度の補正予算を通じた75万ドルの資金提供を行います。

